

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/7)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	マツダ ヒロシ 松田 凡
学歴	昭和57年 3月 京都大学経済学部経済学科卒業 昭和63年 3月 京都大学大学院農学研究科（修士課程）農林経済学専攻修了 平成 6年 3月 京都大学大学院農学研究科（博士課程）農林経済学専攻単位取得満期退学				
学位	昭和63年 3月 農学修士（京都大学）				
専門分野	文化人類学、アフリカ地域研究				
専門資格					
所属学会	昭和60年 5月 日本アフリカ学会 平成 4年 3月 日本ナイル・エチオピア学会 平成 4年12月 日本文化人類学会 平成12年 4月 生態人類学会 平成17年 4月 地域農林経済学会 平成18年 8月 日本オーラル・ヒストリー学会 平成26年 7月 観光学術学会				
受賞					
担当 授業科目	学 部 総合社会学入門、総合社会学演習・、地域研究概論、社会に活かす文化人類学、初年次演習、総合社会学基礎演習、 大学院 文化人類学基礎研究法演習・、文化人類学研究法演習・、現代文化研究（経済と環境）、現代文化研究演習（経済と環境）、現代文化人類学				
論文指導	論文指導担当[主査]（卒論：0名、修士論文：0名） 論文審査担当[副査]（修士論文：1名）				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名 総合社会学演習	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 9名	
	1 授業の概要：環境社会的視点から水問題を考えることを目的に、授業前半では元滋賀県知事の著作を事前に読み、琵琶湖辺の暮らしを調査するフィールドワークを行った。後半では、世界の逼迫した水需要について書いた書物を読み、水問題に対して、ミクロとマクロ、現実と書物という立体的なアプローチによる事実認識を意図した。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果： 書物で描かれた世界と現実の姿を見比べたり、地元の方の話を聞くことで問題の理解がさらに進むことが確認できた。 今後の課題： 書物の輪読については、学生は受け身的で、自ら学ぼうという意欲に欠けるところが見られた。学生同士のディスカッションを促す方法を検討したい。				
2	科目名 地域研究概論	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 84名	
授業の概要：グローバル化する現代世界において、世界各地の文化・社会がどのようにそれに対応し、変化しつつあるかについて、教科書を用いるとともに、映像資料や新聞記事などを使って、履修学生が課題に答える形式で授業を進めた。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/7)

	<p>教育活動の振り返り 教育活動の成果： 教科書を用いたことで、授業の予習が可能になった。また資料を自ら読み込み、課題に答えることで主体的に授業に臨む学生が多かった。 今後の課題： 教員による解説の時間を減らし、学生自らが考える時間をより増やすことを心がけたい。</p>
F D 活 動 ・ 教 育 実 績 つ づ き	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 以下の研修等に参加 学内： 2014年10月30日 京都文教大学第1回FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携」 2014年12月17日 「COC全般に関するFD/SD研修」兼「COC採択記念講演会」(京都文教大学地域協働研究教育センター主催) 2015年 2月18日 「『地域が学生を育て、学生が地域を元気にする』地域連携活動の試み～名古屋学院大学の事例から～」(京都文教大学地域協働研究教育センター主催) 2015年 2月19日 「『ひろみらプロジェクト』の学び～活動紹介と今後の展望について～」(京都文教大学地域協働研究教育センター主催) 2015年 2月26日 「IRの概要と事例～中小規模大学が取り組むIRのあり方～」(京都文教大学地域協働研究教育センター主催) 2015年 3月 5日 京都文教大学第2回FD研修会「授業と評価をつなぐ為に～ルーブリック評価入門～」 学外： 2014年 9月20日 「京都企業と連携した次代の京都を担う人財の育成事業」・中間発表会(京都市主催、特定非営利活動法人グローバル人材開発センター共催) 2015年 2月27日 「グローバル人材育成事業成果報告会」(京都市主催、京都経済同友会ほか後援)</p>
	<p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 プロジェクト・ウオプル：エチオピアとの国際協力支援を中心に、日本の小学校や市民対象のアフリカ文化の紹介などを主な活動としたサークル活動を学生とともにやっている。かつてのフィールドワーク実習から派生した活動で、現実の諸問題（貧困や教育、異文化理解など）を実地に学ぶ機会となっている。 東北大震災復興支援活動：2011年以来行っているが、2014年度は福島（相馬）と宮城（仙台・石巻）に学生39名とともに参加した。マスコミなどで知る東北復興の姿に加えて、学生自らが参加し見聞することで学ぶ現実、関西においては学び得ない重みがあると考えている。今年度から「KBU feel 3.11」と題して、より多くの学生とともに、地域防災も視野に入れた活動に取り組んでいる。</p>
H26 年度 研究課題	<p>1. アフリカにおける農民経済と自然および国家の関係に関する経済人類学的研究 2. 地域における文化人類学の実践的、教育的応用に関する研究</p>
年 度 の 研 究 活 動 の 概 要 平 成 二 十 六 (2014)	<p>上記の研究課題1にしたがい、学会参加、研究会参加、資料収集を行った。 研究課題2については、学会参加、学会発表、資料収集、実践活動を行った。今年度はアクティブラーニングや課題解決型学習のような新たな教育手法についてのFD研修会などに参加する機会を多くもつことで、研究成果をより効果的に教育に活かすための方法論的研究を重点的に行った。</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/7)

平成二十六(2014)年度の主な研究成果等	(著書)
	(論文)
	(学会報告、学会活動) 学会発表： 1. 「学生とともにエチオピアを訪ねる ～海外調査実習と国際協力」(シンポジスト) 単独、平成26年7月、日本文化人類学会 公開シンポジウム「大学で学ぶ文化人類学 ～フィールドワーク教育の試みと可能性」、愛知県産業労働センターウインクあいち 学会活動： ・ 日本ナイル・エチオピア学会評議員「平19.4より」 ・ 日本ナイル・エチオピア学会副会長「平25.4より」 ・ 日本アフリカ学会評議員「平23.4より」
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) エッセイ： 1. 「土地・人・文化の脱構築」、共著(当該部分担当)、平成27年3月、京都文教大学学生課、『東日本大震災復興支援活動(福島県相馬支援活動)報告書』2014(pp.54-55)
	(調査活動) 平成26年12月 文化交流創成コーディネーター育成に関する調査、於：多摩大学 平成27年 3月 初年次教育における文化人類学的フィールドワークの応用に関する調査、於：明星大学
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成25年度-平成26年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(基盤研究B・海外学術)「NGO活動の作りだす流動的社会空間についての人類的研究 エチオピアを事例として」(課題番号25300049、研究代表者:大阪府立大学・人間社会学部・教授 宮脇幸生)研究協力者 平成26年度 平成24年度 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」(代表:龍谷大学)と「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発」(代表:京都産業大学)による、地域資格制度とアクティブ・ラーニングの推進に関する研究
(学内活動) 学生部長、大学運営会議委員、大学教学会議委員、自己点検・評価委員会委員、自己点検・大学院委員、自己点検・評価 管理運営専門委員会委員、自己点検・評価 教育研究専門委員会委員、自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員、広報委員会委員、学生相談室運営委員会委員、大学間連携共同教育推進事業委員会委員、学科予算委員会委員	
平成二十六(2014)年度における活動	(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託) ・ 公益財団法人宇治市文化センター理事「平23.4より」 ・ 大学共同利用機関法人「国立民族学博物館」運営委員「平24.4より」
	(NPO 法人等の団体への参画) ・ NPO法人グローバル人材開発センター理事「平24.11より」
	(小中高との連携授業の講師) 平成26年11月 京都文教高等学校ALP「自動小銃から考える世界の平和 ～アフリカ国境地帯の日常にみられるむき出しの暴力」、於：同校 平成27年 1月 国際理解教育授業「私たちにもできる国際協力 ～飛び出せ世界のフィールドへ」、於：京都文教短期大学付属小学校

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/7)

<p>平成二十六年(2014)年度の社会における活動</p>	<p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成27年 2月 1. 宇治市生涯学習センター「宇治まなびんぐ2015」、ワークショップ(「プロジェクト・ウオブル」と共に) 対象：宇治市民、於：同センター</p> <p>2. 宇治市生涯学習センター「宇治まなびんぐ2015」、東日本大震災支援活動 紹介写真展(「イーサポ」と共に) 対象：宇治市民、於：同センター</p> <p>(その他)</p> <p>平成26年度 「KBU feel 3.11プログラム」(東日本大震災復興支援活動)立案・活動 京都文教大学学生課・学生サークルイーサポとともに。</p> <p>平成26年10月 「伝統行事の復興と再創造 / 福島県相馬地方野馬追に生きる人々 ~千年の歴史と伝統」(京都文教大学総合社会学部・学生課主催)のコーディネーター</p> <p>平成26年11月 「タイとガーナの恋の語り方」(京都文教大学総合社会学部・学生課主催)のコーディネーター</p> <p>平成27年 2月日「浄土宗宗門関係大学社会連携企画報告会・学生(わたしたち)は地域での活動から何を学んだのか?」、パネルディスカッションのコメントーター</p>
<p>平成二十一年(2009)～二十五年(2013)年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 「2009 プロジェクト・ウオブルとフー太郎の森基金」, 単著、平成21年5月、東京新聞社、新妻香織著、『よみがえれフー太郎の森：エチオピアで希望を植えよう』(p.123)</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「劇場におけるアフリカの民族舞踊」, 共著、平成23年6月、共著者：遠藤保子、立命館大学産業社会学会編、立命館産業社会論集第47巻第1号 (pp.27-48)</p> <p>2. 「劇場におけるアフリカの民族舞踊～ガーナの民族舞踊公演を事例として」(研究ノート) 共著、平成24年3月、共著者：遠藤保子・相原進、立命館大学産業社会学会編、立命館産業社会論集第47巻第4号 (pp.139-157)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>学会発表：</p> <p>1. 「同時代世界を生きる地域と学校～プロジェクト・ウオブルの試みと実践」, 単独、平成22年4月、第19回日本ナイル・エチオピア学会公開シンポジウム「ナイル・エチオピアと多摩から<地域と教育>をみつめる」(シンポジスト) 明星大学日野校</p> <p>2. 「『文化教育』の可視化と2つのGP」, 単独、平成22年7月、第9回国際文化学会フォーラム「国際文化学部」教育の役割と課題 (シンポジスト) 東海大学札幌キャンパス</p> <p>研究会発表：</p> <p>1. 「人はなぜ農牧に向かうのか～エチオピア西南部からの視点」, 単独、平成22年10月、モラル・エコノミー研究会(下記の杉村科研22255011による研究会) 京都大学農学部</p> <p>2. 「鶴見和子とカール・ポランニー～自然と地域の概念をめぐって」, 単独、平成23年2月、鶴見和子研究会(下記の鶴飼科研20320019による研究会) 京都文教大学</p> <p>学会活動：</p> <p>平成19年 4月 日本ナイル・エチオピア学会評議員「現在に至る」</p> <p>平成20年 4月 日本アフリカ学会監査「平23.3まで」</p> <p>平成21年 4月 日本オーラル・ヒストリー学会理事「現在に至る」</p> <p>平成23年 4月 日本アフリカ学会評議員「現在に至る」(理事「平26.3まで」)</p> <p>平成25年 4月 日本ナイル・エチオピア学会副会長「現在に至る」</p> <p>その他：</p> <p>1. 「国境を生きる文化～エチオピア西南部オモ川下流平原におけるムグジ人の武装化」(研究実践交流会「少数民族・先住民族研究とオーラル・ヒストリー」の話題提供者) 単独、平成21年9月、日本オーラル・ヒストリー学会第7回大会、北星学園大学</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/7)

(学会報告、学会活動 つづき)

2. 小中高大連携研究会「初等・中等教育現場の文化人類学:「ミュージアム活動」を通じた小中高大連携の可能性にむけて」(総合討論司会) 平成22年12月、京都文教大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

事典:

1. 「ソマリア民主共和国」、共著(当該項目他44項目担当) 平成24年11月、朝倉書店、竹内啓一 総編集、加藤博・島田周平編集、『世界地名大事典3(中東・アフリカ)』(pp.561-563他)

エッセイなど:

1. 「朝メシ前の人類学・第7回・あれって、ホンモノの銃ですよ?」、単著、平成21年4月、国立民族学博物館監修、季刊民族学128号(pp.71-78)
2. 「朝メシ前の人類学・第8回・私たちは、これからどうしたらいいんですか?」、単著、平成21年7月、国立民族学博物館監修、季刊民族学129号(pp.77-84)
3. 新刊紹介「末原達郎著『文化としての農業、文明としての食料』人文書館 2009」、単著、平成22年3月、アフリカ研究 76(p.69)
4. 「文化コーディネーターに託された未来」(連載「地域公共政策士」への視点5)、単著、平成22年12月、地域公共人材大学連携事業ニュースレター第6号
5. 「森に棲むナマズの力:ヒレナマズ」、共著、平成24年7月、丸善出版、月刊みんぱく編集部編、『食べられる生きものたち ~世界の民族と食文化48』(pp.24-25)
6. 「2013年度 エチオピア フィールドワーク実習 報告書」、共編著、平成26年3月、京都文教大学総合社会学部文化人類学科、78p

その他:

1. 「土地の記憶と『斉春』」、共著(当該部分担当) 平成24年3月、京都文教大学学生課、『東日本大震災復興支援活動(福島県相馬支援活動)報告書 ~いま、被災地でできること』2011(pp.52-53)
2. 「2回目の相馬」、共著(当該部分担当) 平成25年3月、京都文教大学学生課、『東日本大震災復興支援活動(福島県相馬支援活動)報告書 ~出会いと再会と想い』2012(pp.52-53)
3. 「『何かしたい』と『忘れてほしくない』とのはざままで」、共著(当該部分担当) 平成26年3月、京都文教大学学生課、『東日本大震災復興支援活動(福島県相馬支援活動)報告書』2013(pp.60-61)
4. 「ブックレビュー:阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』」、共著(当該部分担当) 平成26年3月、京都文教大学『総合社会学部ガイドブック・社会をのぞく15の方法』(p.81)
5. 『2013年度エチオピア・フィールドワーク実習報告書』、共著、平成26年3月

(調査活動)

- | | |
|-----------------|--|
| 平成21年 8月 | エチオピア(科学研究費補助金課題番号20401046:後述) |
| 平成22年 8月 | エチオピア北部ラリベラ(科学研究費補助金課題番号20300213:後述)
エスクスタ(アムハラ人の民族舞踊)とアシェンディエといわれる祭りに関する現地調査 |
| 平成24年 7月 | まちづくりに関する調査(大学院生と共に) 於:郡上八幡 |
| 平成24年 8月 | 「アフリカ・モラル・エコノミーの視圏 その源流・変容・未来に関する論点の総合化のための基礎的研究」(福井県立大学特別研究費) 於:タンザニア |
| 平成24年8月・平成25年1月 | グリーンマップ作成の基礎調査(学生と共に) 於:エチオピア、宇治 |

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/7)

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)

平成20年度-平成23年度

科学研究費補助金(基盤研究B・一般)「モーションキャプチャを利用したアフリカの舞踊に関する総合的研究」(課題番号20300213, 研究代表者:立命館大学・産業社会学部・教授 遠藤保子)の連携研究者

平成20年度-平成22年度

科学研究費補助金(基盤研究A・海外学術)「アフリカ在来知の生成とそのポジティブな実践に関する地域研究」(課題番号19251003, 研究代表者:京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 重田真義)の研究協力者

平成20年度-平成22年度

科学研究費補助金(基盤研究B・一般)「『普通の人の哲学』と『知識人の思想』の葛藤をめぐる戦後思想史 鶴見和子文庫を開く」(課題番号20320019, 研究代表者:京都文教大学・人間学部・准教授 鶴飼正樹)の研究分担者

平成21年度-平成23年度

科学研究費補助金(基盤研究B・海外学術)「開発と国家支配 連邦制国家エチオピアにおける開発エージェントと国家権力の相克」(課題番号20401046, 研究代表者:大阪府立大学・人間社会学部・教授 宮脇幸生)による研究分担者

平成22年度-平成25年度

科学研究費補助金(基盤研究A・海外学術)「アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展に関する比較研究」(課題番号22255011, 研究代表者:福井県立大学・教授 杉村和彦)の研究分担者

平成24年度

福井県立大学特別研究費「アフリカ・モラル・エコノミーの視圏 その源流・変容・未来に関する論点の総合化のための基礎的研究」(研究代表者:福井県立大学・学術教養センター・教授 杉村和彦)研究分担者

平成25年度-(2年間)

科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(基盤研究B・海外学術)「NGO活動の作りだす流動的社会空間について的人类学的研究 エチオピアを事例として」(課題番号25300049, 研究代表者:大阪府立大学・人間社会学部・教授 宮脇幸生)の研究協力者

(学内活動)

平成20年 4月

文化人類学科長「平24.3まで」
 大学教学会議委員「現在に至る」
 大学運営会議委員「現在に至る」
 広報委員会委員「現在に至る」
 自己点検・評価委員会委員「現在に至る」
 自己点検・評価 管理運営専門委員会委員「現在に至る」
 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平24.3まで」
 自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員「平24.3まで」
 危機管理委員会委員「平26.3まで」
 人事委員会委員「平26.3まで」
 入試委員会委員「平26.3まで」
 特別補助申請委員会委員「平22.3まで」
 特色GP委員会委員「平23.3まで」
 学部人事委員会委員「平22.3まで」
 学科将来構想委員会委員「平22.3まで」

平成21年 4月

教育GP委員会委員「平23.3まで」

平成22年 4月

文化人類学研究科長「平23.3まで」
 将来構想会議委員「平23.3まで」

平成二十一～二十五(2009～2013)年度の主な研究成果等

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (7/7)

<p>平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の 主な研究成果等</p>	<p>(学内活動 つづき)</p> <p>平成22年 4月 自己点検・大学院委員「現在に至る」</p> <p>平成24年 4月 総合社会学部長「平26.3まで」 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員「現在に至る」 FD委員会委員「平25.3まで」</p> <p>平成25年 4月 海外学術研究助成委員会委員「平26.3まで」</p>
<p>平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の 社会における活動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <p>平成19年度 宇治市帰国外国人児童生徒受入促進連絡協議会委員「平24.3まで」</p> <p>平成21年 8月 平成21年度教員免許状更新講習「フィールドワーク教育の新たな可能性と教材作成」講師、於：京都文教大学サテライトキャンパス宇治橋通り</p> <p>平成22年11月 平成22年度教員免許状更新講習「校外学習に活かすフィールドワーク」講師、「同時代世界を生きる地域と学校～プロジェクト・ウオプルというフィールドワーク」於：京都文教大学</p> <p>平成23年 4月 公益財団法人宇治市文化センター理事「現在に至る」</p> <p>平成23年 8月 平成23年度教員免許状更新講習「校外学習に活かすフィールドワーク」講師、「同時代世界を生きる地域と学校～プロジェクト・ウオプルというフィールドワーク」於：京都文教大学</p> <p>平成24年 4月 大学共同利用機関法人「国立民族学博物館」運営委員「現在に至る」</p> <p>平成24年 8月 平成24年度教員免許状更新講習講師「校外学習に活かすフィールドワーク」於：京都文教大学</p> <p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <p>平成23年度 NPO法人「フー太郎の森基金」の京都支部として活動</p> <p>平成24年11月 NPO法人グローバル人材開発センター理事「現在に至る」</p> <p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成23年 1月 京都文教小学校において、エチオピア関連民俗資料の移動ミュージアムを実施した。</p> <p>平成24年 9月 上宮高等学校・修学旅行フィールドワーク教員研修講師、「京都文教大学におけるフィールドワーク教育プロジェクト」於：同校</p> <p>平成25年 2月 国際理解教育授業、「私たちにもできる国際協力～飛び出せ、世界のフィールドへ！」於：京都文教短期大学付属小学校</p> <p>(その他)</p> <p>平成21年10月 第1回まちづくりシンポジウム「地域(まち)づくりのデザイン:市民・大学・行政「協働のまちづくり」をめざして」(パネリスト) 於：キャンパスプラザ京都</p> <p>平成22年12月 第2回まちづくりシンポジウム「ともに生きる地域(まち)づくり:現場から多文化社会を考える」(趣旨説明) 於：キャンパスプラザ京都</p> <p>平成23年10月 アゾルオ・ガーナ民族舞踊団宇治公演のコーディネーターとして事務局を担当、於：宇治市文化センター</p> <p>平成24年 4月 龍谷大学地域公共人材・政策開発リサーチセンター(LORC) 研究員(人材開発に関する事業に参加「平成26年3月まで」</p>